

第4回原子力耐震安全研究員会 研究報告  
(2012年3月2日)

原子力耐震安全分野における  
情報の分かりやすさ

新潟工科大学

## 背景と目的

中越沖地震における原子力施設に関する自衛消防及び  
情報連絡・提供に関する委員会の提言

“表現方法の工夫等による分かりやすい情報提供”

### ◆ 地元住民が必要とする情報

「何が起き(過去), どのように進んでいるか(現在)」

→ 簡易であるが早く・分かり易く・的確な手段で！

「今後どのようになるのか(未来)」

→ 時間を要しても詳細に・分かり易く・的確な手段



分かりやすい情報提供を実現する  
「**柏崎・刈羽モデル**」の構築<sup>\*1</sup>

\*1 JNESとの共同研究

# 柏崎・刈羽モデルの構築

- ① 専門家と地域住民との理解の乖離に関する情報を収集・分析し、乖離の要因を整理する。
- ② 要因の整理結果に基づき、分かりやすさ・見える化がどうあるべきかの定式化を進める(①、②を繰り返すことで改良を重ねる)。
- ③ 定式化には、①、②の実施プロセスも明記し、他地域への活用手順も盛り込む。
- ④ ①～③までの成果を纏めたマニュアルを「柏崎・刈羽モデル」とする。

2010  
年度

2011  
年度

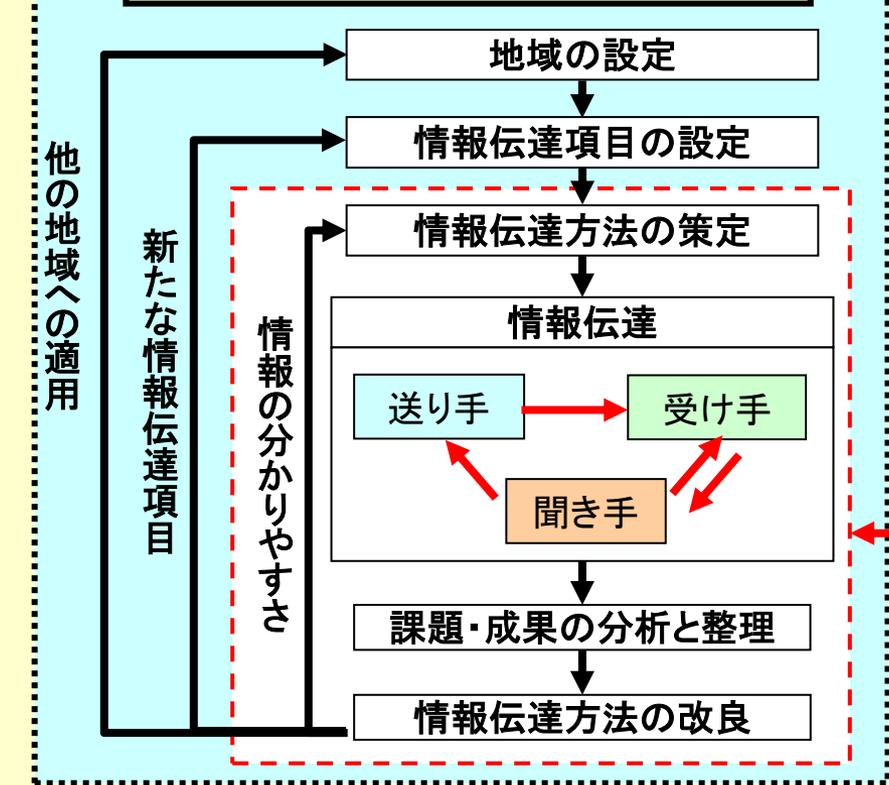
構築を進める上での留意点：

- \* 専門家の視点と住民の視点との乖離を是正
- \* 情報の受け手である住民の視点を重視

# 「柏崎・刈羽モデル」レシピ

## 柏崎・刈羽モデル

柏崎・刈羽モデルの概念を具現化する  
プロセスのレシピ(プロセスレシピ)



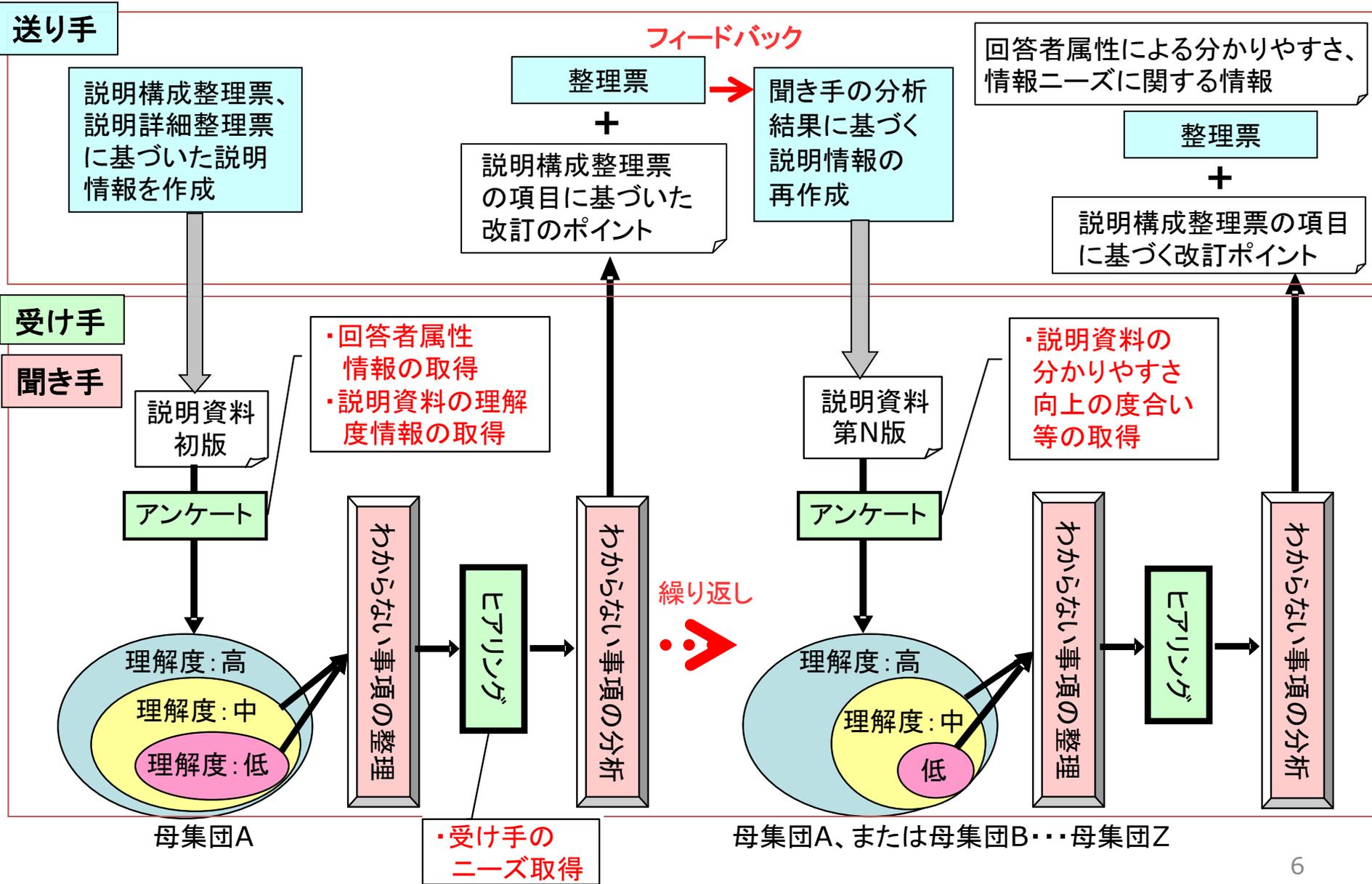
技術説明学  
・技術説明学の10の要件による  
情報伝達事項の整理手順、等

伝達する情報の作成レシピ  
(情報レシピ)

分かりやすい情報伝達マニュアル

他地域での利用

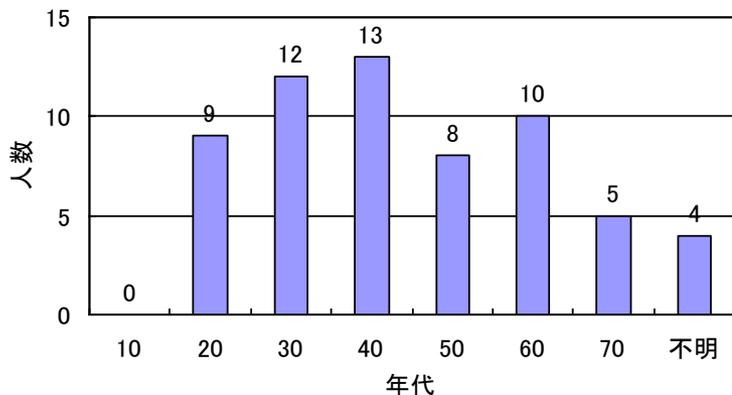




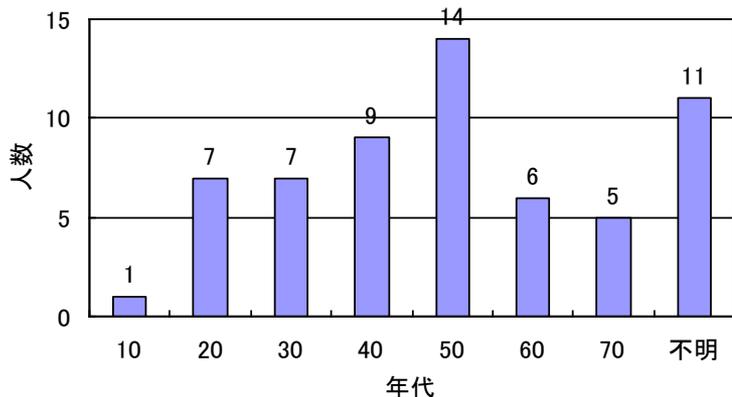
# 「柏崎・刈羽モデル」レシピの実証実験

## 1) 第1回と第2回アンケートの対象

第1回アンケート回答者年代構成  
(回答数=61)



第2回アンケート回答者年代構成  
(回答数=54)



「受け手」の内訳第1回、第2回の回答数

#	集 団	第1回	第2回
1	産学交流会企業	13	
2	主婦(育児世代)	5	4
3	柏桃の輪	13	15
4	一般(コミセン、企業)	24	28
5	学生	6	7
	計	61	54

第1回アンケート回答者男女構成  
(回答数=61)

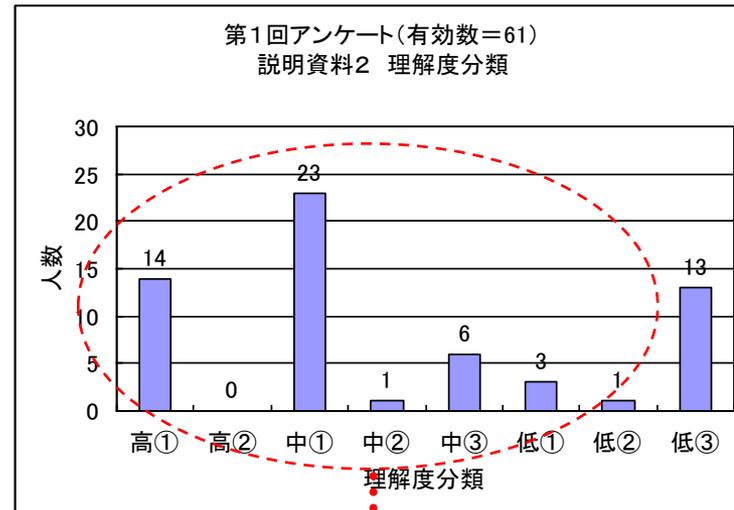
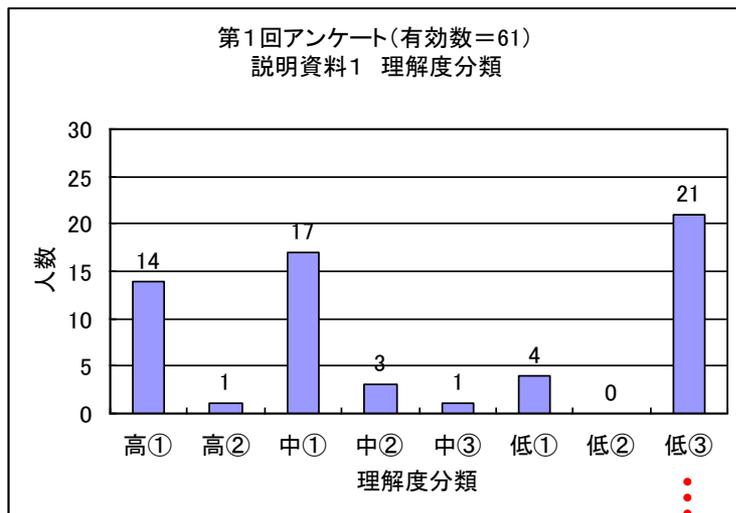


第2回アンケート回答者男女構成  
(回答数=54)

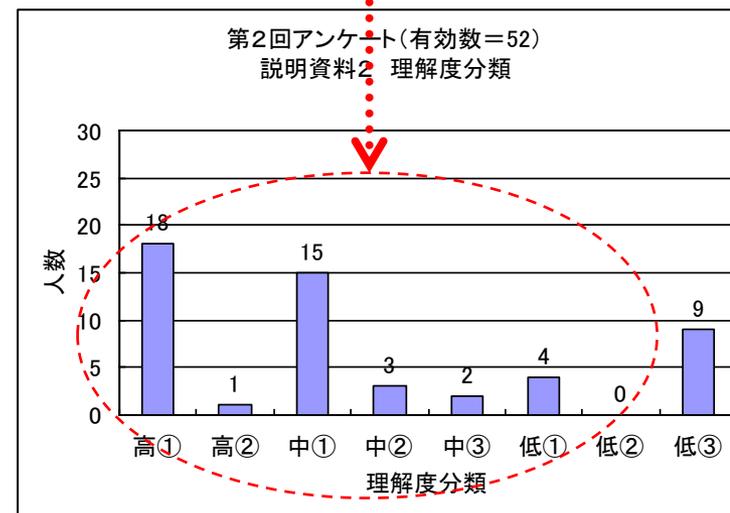
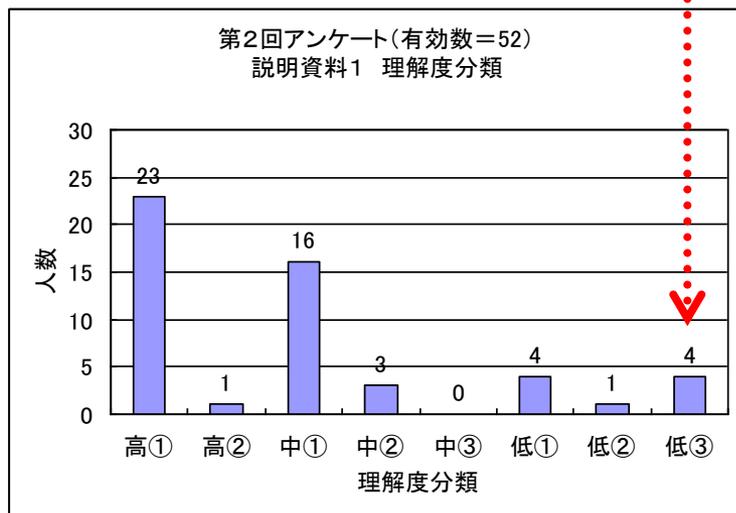


## 2) 実証試験第1回と第2回での「受け手」の理解度比較

### ●第1回実証試験



### ●第2回実証試験



# まとめと今後の課題

## まとめ

- 技術説明学の知見を活用することにより情報の送り手と情報の受け手のギャップ（ニーズ、分かりやすさの観点）を是正する伝達情報作成方法を構築した。構築に当たっては、柏崎・刈羽モデルレシピを伝達情報作成のための「情報レシピ」と情報伝達環境を構築するプロセスのための「プロセスレシピ」に分け詳細化した。
- 詳細化した柏崎・刈羽モデルレシピに基づく実証試験を実施し、構築したプロセスによる「受け手」の分かりやすさの向上を確認した。

## 今後の課題

- 「柏崎・刈羽モデル」レシピ構築の成果として、「分かりやすい情報伝達マニュアル」を導出する仕組みの検討が必要
- 実証試験の展開により、「他地域への適用」に求められる「地域特性」及び「一般的特性」を同定し、「分かりやすい情報伝達マニュアル」への反映が必要
- これまでの取り組みのプロセスを整理、分析し、「聞き手」の組織化、人材育成に関するノウハウの「分かりやすい情報伝達マニュアル」への反映が必要